

修士課程		
	前学期	後学期
1 年次	関係科目	
	臨床心理学の心構え ②	
	心理学研究法特論Ⅰ ②	心理学研究法特論Ⅱ ②
	臨床心理学特論Ⅰ ②	臨床心理学特論Ⅱ ②
	臨床心理面接特論Ⅰ ②	臨床心理面接特論Ⅱ ②
	臨床心理基礎実習 ②	
	臨床心理査定演習Ⅰ ②	臨床心理査定演習Ⅱ ②
	認知心理学特論 ②	
	精神医学特論 2	学習心理学特論 2
		心身医学特論 2
2 年次		心理療法特論Ⅰ ②
	社会病理学特論 2	
		臨床心理地域援助特論 ②
		臨床心理地域援助特論 ②
	臨床心理実習 ②	
	臨床心理査定演習Ⅲ ②	
		高齢者心理学特論 2
	心理療法特論Ⅱ ②	心理療法特論Ⅲ ②
	母子関係特論 ②	
	1・2 年次	専修科目（修士研究）
臨床心理学研究 8		

〈学習・教育目標〉

社会に役立つ心理臨床家、および、科学的素養を有した心理臨床家を育成することを目標にしている。そのため、臨床心理学や関連科学の知識の修得と同時に、専修科目における修士論文の作成、さらに、カウンセリングや心理療法（臨床心理学的介入）の基礎、心理検査の実施と解釈（臨床心理査定）の基礎、臨床心理学的地域援助の実際を、役割演技や、付属の臨床心理センターをはじめとする実習施設において修得することが課せられる。

修士課程

専修科目

臨床心理学研究 8単位 Research for Clinical Psychology

臨床心理学の専門家としては、実践力だけではなく、科学的な素養を有していることも重要である。この科目では、最終的な成果物である修士論文を作成する過程において、科学的な考え方と方法論を修得し、プレゼンテーション能力に磨きをかけ、科学的で論理的な文章作成能力を身につけることを目標としている。研究対象とする個人や集団、コミュニティの特徴を、さまざまな心理学的な方法で査定し、介入や地域援助を視野に入れつつ、臨床心理学的な概念の諸特徴を明らかにしていく。

目標：臨床心理学的な諸現象を論理的かつ合理的に説明できる。最新の臨床心理学的な知識に関心を持ち、それらを修得する。研究会や学会などの学術的な活動に興味を持って積極的に参加し、討論に加わる。自身の研究が有する社会的な価値を意識し、一般の人々に自分の研究の意味を説明できる。研究成果をどのように社会に還元できるかを考える。臨床心理学的な知識と技能を備え、眼前の対象だけではなく社会全体に役立つ臨床心理士を目指す。

修士課程

関係科目

臨床心理学の心構え 2単位 Introduction to Clinical Psychology

本専攻で学ぶにあたってのオリエンテーション的性格の科目である。心理臨床家を目指す学生として、修学上必要となる最低限の知識と態度を修得する。具体的には、科学と実践を兼ね備えた臨床心理学の特質を知るとともに、実践の内容や分野、研究の進め方、研究と実践の両面にわたる人権問題と倫理（守秘義務を含む）などを取り上げ、実習や見学を通して、心理臨床家が取るべき基本的態度を考察する。

目標：本専攻の目指す心理臨床家の在り方を説明できる。心理臨床家の実践活動の内容・領域・専門的技法について説明できる。科学的な方法に則った臨床心理学の研究方法を説明できる。臨床心理学に関する研究の準備として、問題設定に沿った文献を収集し、それを批判的に読むことができる。心理臨床の実践活動における倫理問題について考え、自らの意見を表明することができる。臨床心理学に関する研究を進める上での倫理問題について考え、自らの意見を表明することができる。

臨床心理学特論 I 2単位 Clinical Interview I

臨床心理学全般の基礎知識を修得してもらうことが目標である。臨床心理学の歴史、臨床心理アセスメント、主なパーソナリティの理論と個人心理療法、および、生物-心理-社会モデルに関する基礎的な知識を修得していただくことがこの講義の大きな目標である。臨床心理学においてよく使用される用語や概念の正しい理解と、主なパーソナリティ理論の正しい理解が求められる。

目標：臨床心理学の歴史の概観を知る。臨床心理アセスメントにおける基本事項を知る。臨床心理学における主な理論と個人心理療法の概要を知る。生物-心理-社会モデルの概要を知る。

臨床心理面接特論 I 2単位 Introduction to Clinical Psychology

臨床心理士の職域は広いが、心理面接はすべての職域で必要とされると言っても過言ではない。この講義では、主に査定面接に関するさまざまな局面を取り上げ、それらの面接状況により、臨床心理士として必要とされる知識（倫理的な事柄も含む）を学習することを目標とする。

目標：心理面接に共通する臨床家の態度を知る。心理面接における倫理事柄を知る。受理面接で必要とされる内容を知る。査定面接で必要とされる内容を知る。クライアントとの協力関係の重要性を知る。

臨床心理基礎実習 2単位 Basic Training for Clinical Practice

対象者を理解し、共感するための基本的な態度と技能を、実習を通して受講生が修得することを目標としている。心理臨床家として対象者を観察し、理解し、共感するための基本的なコミュニケーション技能を修得するには、実習形式の体験学習をできる限り多く行い、逐語録の作成や、事例検討会に向けての資料作成といった事柄を経験することが不可欠である。このような体験を通じて臨床心理士としての基本姿勢や、態度を修得してもらうことを目指している。

目標：自分自身の応答の際の言語的、非言語的な特徴を知り、対象者を観察することができる。カウンセラーの応答を定義に従って分類することができる。対象者が話しやすい応答をすることができる。対象者の感情に気づき、それを言語化することができる。対象者を理解するための応答ができる。対象者に心理的援助の外的枠組み（時間、料金、制限事項など）を適切に説明することができる。

臨床心理面接特論 II 2単位 Clinical Interview II

臨床心理士の職域は広いが、心理面接はすべての職域で必要とされると言っても過言ではない。この講義では、臨床心理面接特論 I で学習した事柄を復習し、修得した知識を確実なものとする。さらに、実際の事例報告を基に治療面接に関するさまざまな局面を取り上げ、査定、治療目標の設定、技法の選択、治療目標の再設定、終結、フォローアップなど、臨床心理士として面接に必要とされる知識を学習することを目標とする。

目標：受理面接で必要とされる内容を知る。査定面接で必要とされる内容を知る。クライアントとの協力関係の重要性を知る。治療面接で必要とされる内容を知る。終結の際の留意点を知る。委託・紹介の留意点を知る。

修士課程

臨床心理実習

2単位 Practice in Clinical Settings

学外実習先と大学内の臨床心理センターでの実習を行う。学外実習先では、医療・教育・福祉などそれぞれの領域での専門機関の機能や役割、そこでの臨床心理士の活動について理解する。受講生は、実際に施設の利用者およびスタッフと関わり、精神科疾患を持った人や利用者が抱える問題とそれに対する支援について具体的かつ体験的に学ぶことを目的とする。また学内の臨床心理センターにおいては、実際のカウンセリングや心理療法に携わり、実践的な訓練を積む。

目標：学内外を問わず、毎回の実習について簡潔に概要を述べ、記録することができる。学外施設での実習を通して、それぞれの実習先の特徴や役割を比較しながら説明できる。実習を通して自分が学び考察したことを報告書にまとめることができる。

臨床心理査定演習 I

2単位 Psychological Assessment I

質問紙形式の心理検査について、尺度開発のプロセス、信頼性・妥当性の検討の方法を学ぶ。また代表的な質問紙法であるMMP I (Minnesota Multiphasic Personality Inventory) を取り上げ、実施方法、結果の整理 (採点方法、尺度得点の算出、プロフィールの描画など)、解釈仮説の導出・取捨選択といったレポート作成に至るまでのプロセスを学び、その成果をレポートとして提出する。

目標：質問紙法の大まかな作成段階を述べることができる。信頼性・妥当性の検討方法を説明できる。MMP I の特徴を述べることができる。MMP I の実施、結果の整理、解釈作業などの基礎的な作業を遂行できる。

臨床心理学特論 II

2単位 Clinical Psychology II

臨床心理学特論 I に続いて、臨床心理学全般の基礎知識を修得してもらうことが目標である。臨床心理学特論 II では、臨床心理学の研究手法、心理療法の効果研究、臨床心理学に関する法律と倫理、および、臨床心理学の対象となる主要な疾患として不安障害を取り上げる。これらに関する基礎的な知識を修得していただくことがこの講義の大きな目標である。臨床心理学の研究手法や効果研究に関する知識の正しい理解と、不安障害の症状や介入方法の正しい理解が求められる。

目標：臨床心理学における研究方法を知る。心理療法の効果研究の概観を知る。臨床心理学に関する法律と倫理について知る。不安障害の症状とその障害に対する介入方法を知る。

臨床心理査定演習 II

2単位 Psychological Assessment II

心理検査の中の投射法について学習する。これらの基本的な知識や検査法の歴史、テストバッテリーの考え方などを理解する。また代表的な投射法の1つであるロールシャッハ・テストについて実施から結果の整理、解釈、報告書の作成までの基本的作業ができるようになることを目指す。

目標：投射法の検査に関して複数の名称をあげることができ、かつ簡潔に特徴を説明できる。ロールシャッハ・テストを正しく実施することができる。反応の記号化を正確に行うことができ、構造一覧表を作成することができる。ひとつのプロトコルを解釈し、パーソナリティの特徴について報告書を作成できる。テストバッテリーについて説明できる。

臨床心理査定演習 III

2単位 Psychological Assessment III

臨床場面で多く使用される知能検査と、発達検査について、その概要や歴史を理解するとともに、実施方法と結果の整理ができること、さらに結果から知的機能の特徴を読み取ることができるようになることが目標である。また検査結果を目的に応じた報告書にまとめる訓練も含まれる。

目標：知能検査と発達検査について代表的なものをあげ、どういう特徴があるか説明できる。知能検査を正しく実施し結果の整理ができる。検査結果を分析し、知的機能の特徴をまとめることができる。目的に応じた報告書が書ける。

修士課程

心理学研究法特論 I 2単位 Method of Psychological Research I

この講義では、現代の心理学研究で用いられる方法について学ぶ。この中で、研究にはいくつかの種類と目的、それに合わせた方法、分析手段・結果のまとめ方があることを理解することが必要である。それらを基に受講生は、研究を評価する際に必要な視点を学ぶことになる。また受講生は、研究の準備、データ収集・分析、研究成果の公表の仕方についても学ぶ。そうして得た知識を、自らの研究活動におき換えて研究活動に活かすことが望ましい。

目標：研究のいくつかの種類について、長所と短所を説明できる。心理学研究の上で、剰余変数などの考慮しなければならない点をいくつか説明できる。実験と偽実験の違いを述べるができる。研究結果の一般性について説明できる。

心理学研究法特論 II 2単位 Method of Psychological Research II

事例研究法の心理学的研究法における位置づけや特徴など基本的な知識を身につけるとともに、臨床心理学における事例研究の実際を文献資料などで検討しながら理解していく。ここでは自身の臨床経験を「事例研究」としてまとめる上での基礎と姿勢を身につけることが目標となる。またその前段階として、事例報告の仕方についても指導する。

目標：事例研究と事例報告の違いおよび事例研究・実践研究の特徴を説明できる。事例研究論文の概要を簡潔にまとめて報告し、自分の意見を述べるができる。事例研究や事例報告の方法を理解すると同時に、その際必要な倫理的配慮について説明できる。

心理療法特論 I 2単位 Psychotherapy I

人間性心理学の代表的な心理療法について基礎概念を学習する。特にロジャーズの来談者中心療法について、理論的背景および適用の実際を学ぶ。また、エンカウンターグループなど人間中心アプローチについて概論を学び、クライアント自らの成長する力に焦点を当てた心理療法の理論と実践について理解する。

目標：人間性心理学に関する基本的な用語を理解し、説明できる。来談者中心療法に関する基礎概念を理解し、説明できる。ロジャーズが提唱したカウンセラーの基本的態度について理解し、説明できる。人間中心アプローチについて概論を理解し、説明できる。

心理療法特論 II 2単位 Psychotherapy II

精神分析理論の基礎概念と、精神分析的人格理論について学ぶ。また精神分析的な心理療法について、治療の基本的枠組み、介入方法、アセスメントの方法、心理療法のプロセスなどをテーマに解説し、精神分析的な事例の理解の実際を学ぶ。

目標：精神分析理論の基本的用語を理解し、説明できる。自我の諸機能および機制について説明できる。精神分析的な心理療法の特徴を説明できる。精神分析理論や精神分析的な心理療法に関してその意義や問題点を考察することができる。

心理療法特論 III 2単位 Psychotherapy III

社会不安障害、強迫性障害などの不安関連障害の臨床心理学的査定や介入方法を知り、実際の臨床場面において、クライアントの問題を特定でき、介入方法を実践できる準備を行う。主として認知行動療法的な枠組みから事例への理解を深めていただく。

目標：不安関連障害の症状や診断基準を知る。各症状がクライアントの日常生活におよぼす影響を知る。不安関連障害に対する介入技法を知る。不安関連障害に関する事例報告を批判的に読むことができる。不安関連障害に関する研究文献を読むことができる。

修士課程

精神医学特論

2単位 Psychiatry

臨床心理士にとって知っておく必要があると思われる精神障害の原因、症状、経過、治療法を学ぶ。また、精神障害の治療・ケアは医療機関をはじめさまざまな機関が関わり、さまざまな職種が関わる。精神医療の社会的側面も学ぶ。

目標:精神医療の大枠が理解でき、その中で臨床心理士の役割が説明できる。精神医療の主な対象となる疾患の症状、経過、治療が説明できる。中枢神経に作用する薬物についてその種類、適応症について説明できる。

学習心理学特論

2単位 Learning Psychology

この講義では、学習心理学の重要な事項について理解を深め、学習心理学の知見がどのように応用されているかを学ぶ。まず、初期の学習心理学の実験事実を学び、基礎的な用語を理解する。その後、これまでに得られた学習心理学の知見が、実際の臨床事例に適用されているケースを基に、基礎的な知見が応用的な技法にどのように反映されているかを理解する。

目標:学習とは何か簡単に説明できる。古典的条件づけのプロセスについて説明できる。オペラント反応の形成について簡単に説明できる。臨床場面で用いられている技法に関連する実験的事実について言及できる。

心身医学特論

2単位 Psychosomatic Medicine

心と体の関係について東洋医学の経験、西洋医学の研究結果を学ぶ。心理社会的ストレスが引き起こす、あるいは影響する病気・病態について知り、治療的関わりについても学ぶ。

目標:心身相関の生理の基礎について説明できる。心身症の代表的な疾患について簡単な説明ができる。心理社会的因子が大きく影響について簡単な説明ができる。疾患・状態についてその病態、治療や対応について簡単な説明ができる。

社会病理学特論

2単位 Social Pathology

現代社会で広くみられるようになったさまざまな嗜癖行動についてその疫学、症状や特徴、周囲の人々への影響、回復、治療へのアプローチや関わりを学ぶ。回復にとって重要な自助活動についても学ぶ。また、ひきこもり、DV、虐待についてもその実態と回復・援助について学ぶ。

目標:嗜癖の成り立ちと回復のメカニズムについて知る。嗜癖行動の回復支援の方法であるアディクションアプローチについて知る。嗜癖回復で重要な役割を果たす自助活動について知る。

母子関係特論

2単位 Developmental Psychology

近年、発達には「受精の瞬間から死に至るまでの心身の構造や機能の変化の過程」と定義されるようになった。人間は生物学的な制約を受けながらも、環境と相互作用しながら長期に亘る発達を遂げてゆく。この授業は、人間の発達の過程を、生物学的・社会的・心理学的な側面から包括的に理解するなかで、各発達段階における現代の課題を認識し、各自が対応策について具体的に考察することが求められる。併せて、自分自身の発達の軌跡について振り返り、この先の自己の発達を想像する機会にもなる。

目標:生涯発達心理学に関する基本的な知識を習得し、各発達段階における特徴や課題を理解する。成人期以降の発達についても知識を習得し、老いや死について想いを巡らすことができる。

修士課程

学校臨床心理学特論 2単位 School Psychology

この講義では、スクールカウンセリングを概観し、学校場面におけるカウンセリングの特徴について解説する。この中でいじめや不登校といった問題に対し、スクールカウンセラーがどのように対応していくのか考える。さらに学校場面においてカウンセリングを行っていく際の留意点について述べる。また発達障害に対する理解を深め、適切な特別支援教育の方法について学ぶ。

目標：スクールカウンセリングの特徴を述べることができる。学校現場で留意すべき点をあげることができる。特別支援教育制度について簡単に述べるができる。発達障害に対する対応をいくつかあげることができる。

高齢者心理学特論 2単位 Psychology of Aging

臨床現場で出会う高齢者の諸課題（高齢者の身体的、心理的、社会的側面など）を取り上げる。特に、高齢期の心理学的特徴、発達の特徴、受講者が高齢者との対人関係を深める方法、高齢者対象の心理療法やアセスメントの方法など、心理学を専門とする対人支援専門職になるにあたり学んでおくべきテーマについて、理解を深める。

目標：高齢期にみられる身体的・心理的・社会的特徴を文章で説明できる。高齢者に対する心理学的支援方法を文章で説明できる。高齢者に対する心理アセスメントについて文章で説明できる。高齢者を取り巻く福祉・行政的施策について文章で説明できる。

臨床心理地域援助特論 2単位 Community Psychology

コミュニティ心理学の観点から、地域、組織などさまざまな「コミュニティ」を対象とした、臨床心理学的な査定および介入に関する理論と技法を理解する。また、さまざまな地域コミュニティが抱える精神健康面での問題や、各コミュニティにおける心理臨床家の役割および職業倫理などを考究するための基礎知識を修得する。

目標：コミュニティ心理学の基礎用語が説明できる。さまざまなコミュニティが抱える精神健康的側面における問題を指摘できる。さまざまなコミュニティに対する心理臨床家の役割について検討できる。さまざまなコミュニティへの心理的な介入法について考案できる。